

## 令和7年度 職場改善運動に関するアンケート結果

アンケート実施方法：Microsoft Forms

アンケート対象者：全職員

アンケート実施期間：令和8年2月9日～2月24日

アンケート回答者数：計 928名（回収率：53.8%）（内訳）ルシアス・ATC：160名（回収率：57.3%）

環境事業センター：698名（回収率：51.9%）

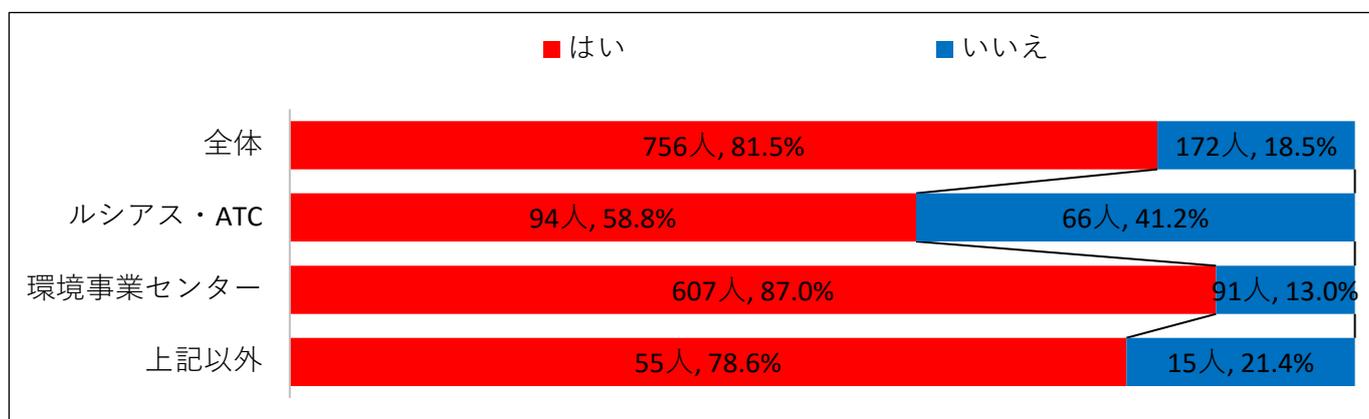
上記以外：70名（回収率：69.3%）

### 1 各職場における職場改善運動が活発かどうか

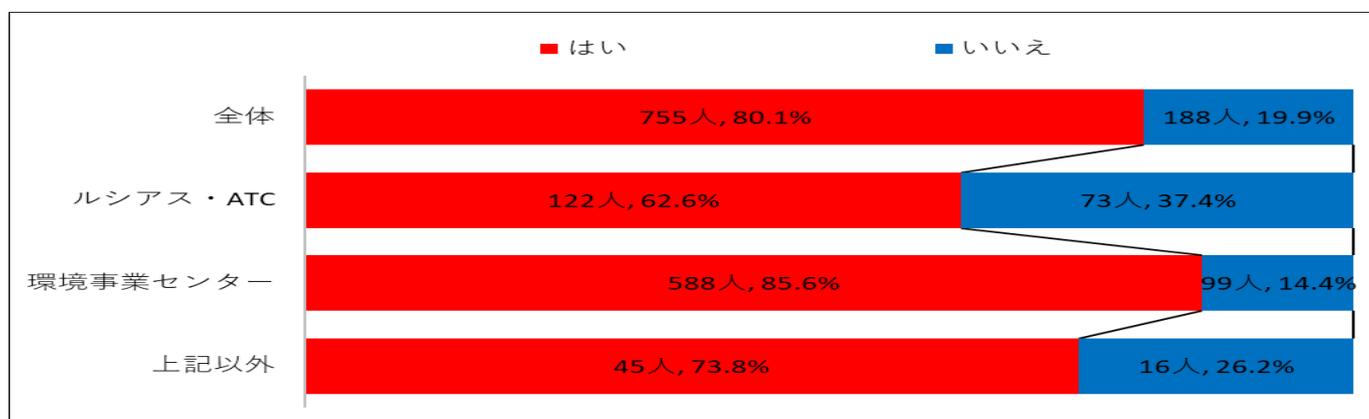
「はい」と答えた割合は全体の81.5%であり、令和6年度に引き続き、回答者のうち8割超の職員が自職場の職場改善活動が活発であると回答している。職場別に見るとルシアス・ATCが58.8%、環境事業センターが87.0%、それ以外の職場が78.6%であり、環境事業センターが最も活発である傾向は変わらない。

#### Q1-1：自職場の職場改善運動は活発か

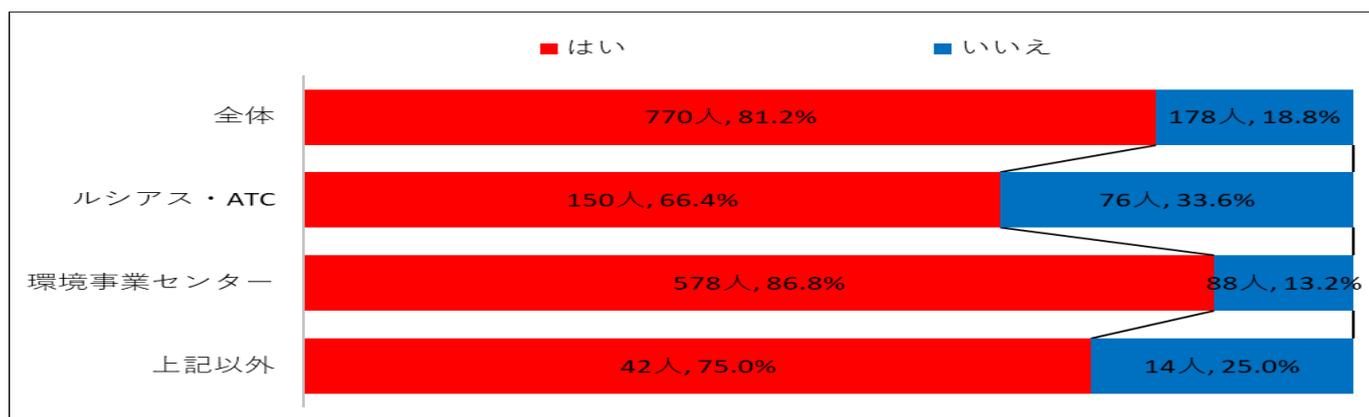
（令和7年度）



（令和6年度）



（令和5年度）



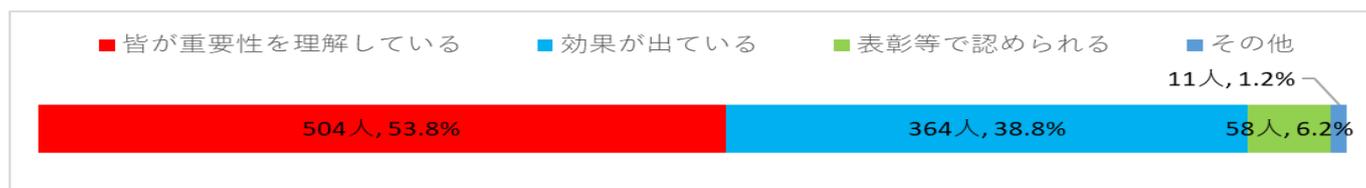
### Q 1-2 : 活発である理由 (複数回答可)

Q 1-1で自職場の改善運動が活発であると回答した職員に対して、活発である理由について設問したところ、「皆が重要性を理解している」との回答が全体の60.1%を占め、最も多い回答であった。次に多かったのは「効果が出ている」という回答であり、この回答を選んだ職員は38.8%であった。

(令和7年度)



(令和6年度)



(令和5年度)



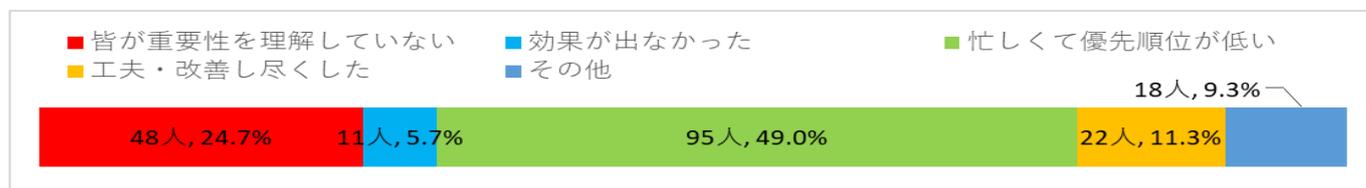
### Q 1-3 : 活発でない理由 (複数回答可)

Q 1-1で自職場の改善運動が活発でないと回答した職員に対して、活発でない理由について設問したところ、「忙しくて優先順位が低い」との回答が最も多く全体の4割を占め、次いで「皆が重要性を理解していない」という回答が2番目に多いという結果となった。

(令和7年度)



(令和6年度)



(令和5年度)

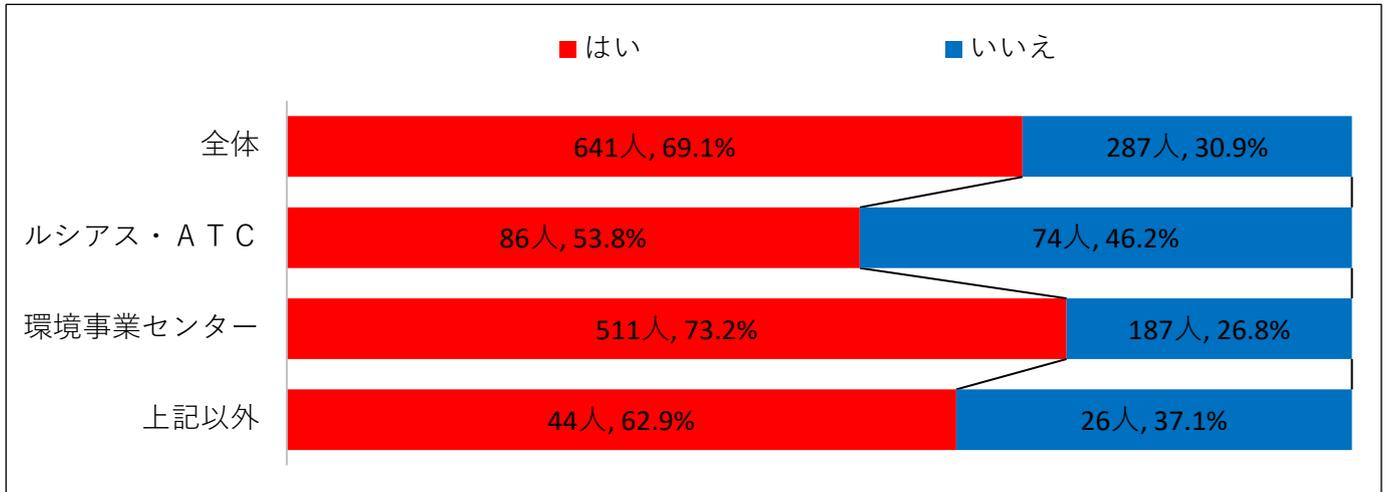


## 2 各職場の事例共有度・把握状況

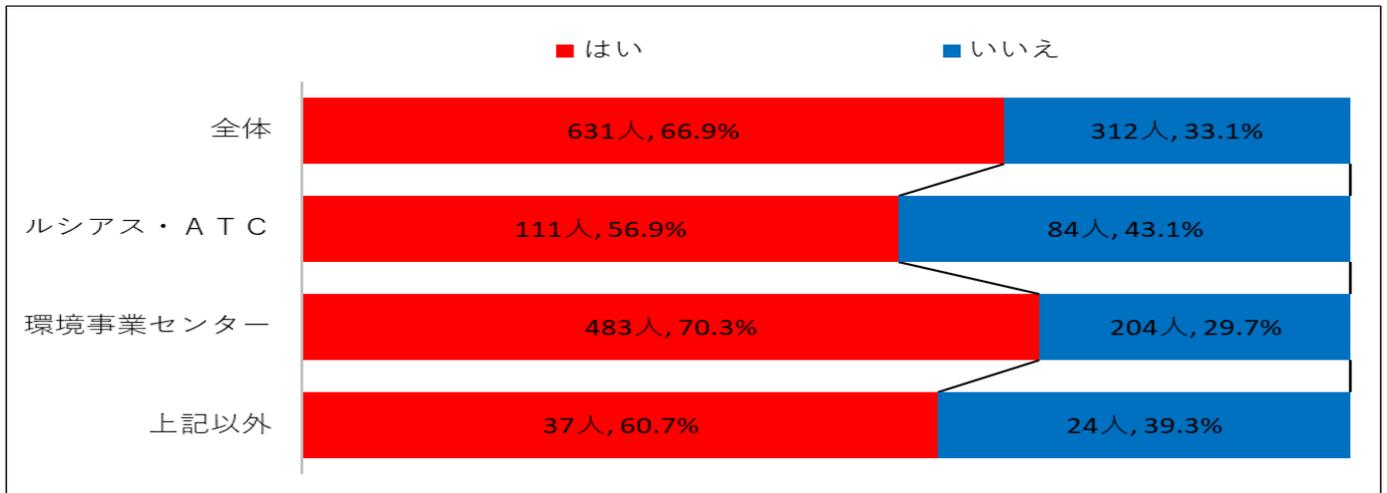
### Q2-1：他の部署の事例を参考にしているか？

全体の69.1%の職員は、他の部署の事例を参考にしているという結果となった。前年度（66.9%）と比較すると増加した結果となっている。

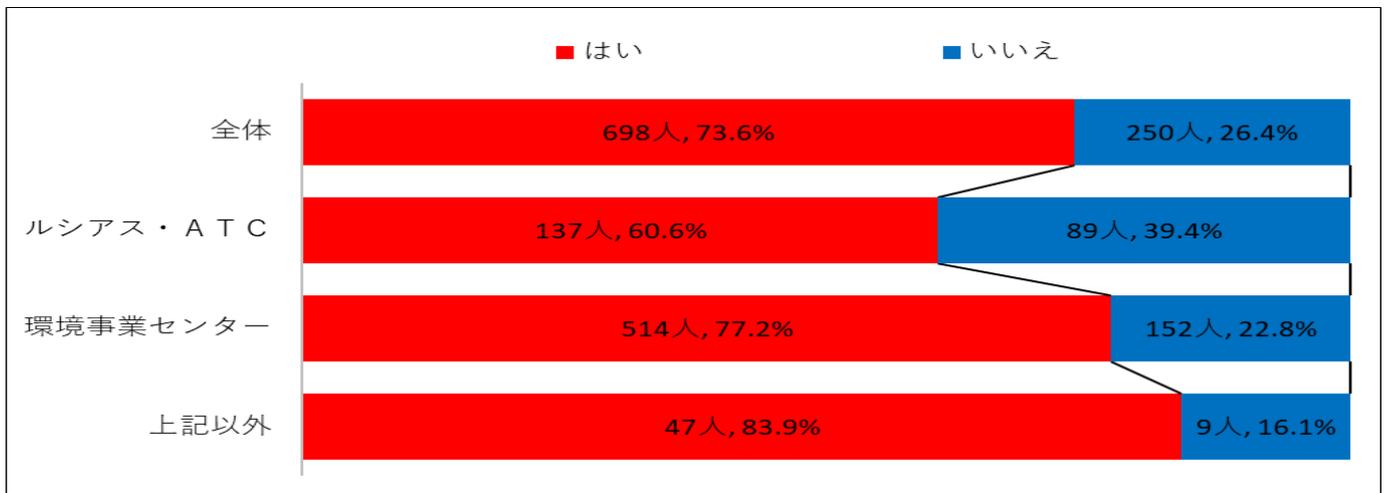
（令和7年度）



（令和6年度）



（令和5年度）



**Q2-2：他の部署の事例を、どのように把握しているか（複数回答可）**

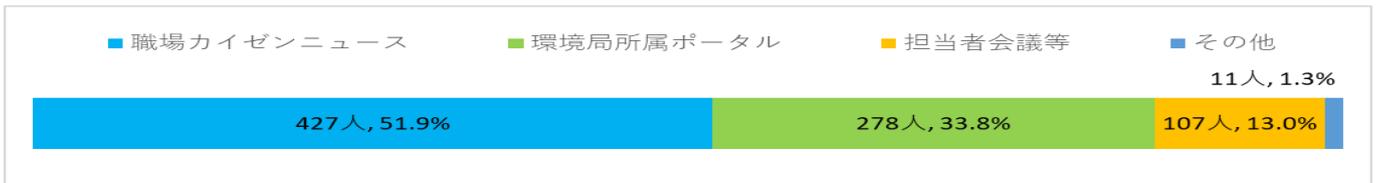
他部署の事例を把握するツールとしては、「**職場カイゼンニュース**」を活用しているという意見が全体の約5割を占めていることから、職場改善を推進するために、各職場の改善の取組などを「職場カイゼンニュース」に掲載し、積極的に情報共有を続けていく必要がある。

※令和6年度から「担当者間の会議、事務連絡会等」の選択肢を追加。

(令和7年度)



(令和6年度)



(令和5年度)



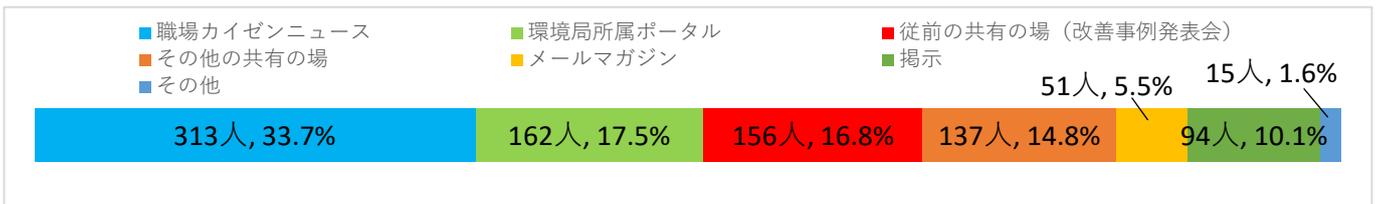
**3 職場改善の取組の共有について**

**Q3：職場改善の取組の共有のために、最も効果的であると思うものはどれか**

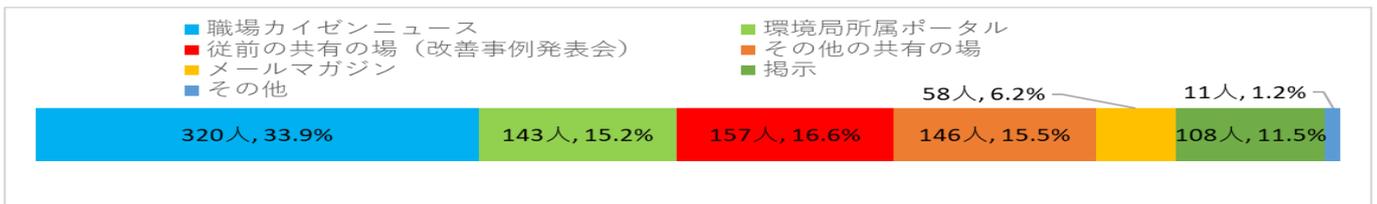
**職場カイゼンニュース**が効果的であるとする職員が一番多い結果となった。

※令和5年度は「職場改善運動の活発化のために、効果的であると思うもの」として設問。

(令和7年度)



(令和6年度)



(令和5年度)

